

公演タイトル 第25回「福祉の祖 トテ馬車和尚 小川金英物語」

公演日 平成13年2月24日(土) 18:30、25日(日) 14:00

作者・演出 脚本：藤井利雄 演出：吉田伸吾 監修：小川隆英

入場者数 24日：577人、25日：809人、合計：1,386人

参加者数 83人

あらすじ

この物語は、双葉町にある松庵寺の前住職、小川金英さんのお話です。

小川さんは、明治38年に生まれました。(子供のころの名前は金次郎です)

14歳のころに、育ててくれた父と母が病気で亡くなってしまったので、残されたおじいさんと妹・弟たちのために、馬車引きや魚売りの仕事をしました。

一生でもっとも苦しかったのがこのころで、苦勞をしながら働く金次郎を力づけてくれたのが仏の道だったのです。

来迎寺(らいこうじ・日詰のお寺)の和尚さんに仏教を学んだ金次郎は、多くの人々に仏の教えを話してあげました。その努力が認められ小川金英という名前で和尚さんになり、花巻の松庵寺の住職として働くことになりました。

これまで、たくさんの人々に助けられたという思いから、困っている人たちを助けてあげ、みんなで生きる喜びを分かち合ってきました。

舞台には、市内の小学生がたくさん出演します。毎日一生懸命練習しておりますので、ぜひ見に来てください。

民生委員が“昼夜銀行”

1954年12月18日 の記録 カテゴリー： 岩手日報記事

花巻市に利子も証書もとらず生活に困る人たちに金を貸している“昼夜銀行”というものがある。これは同市大工町松庵寺住職小川金英氏(50)が世話人となって貸し付けている「助け合い銀行」である。

小川氏は長らく民生委員を勤めているが昭和26年12月になんの貯えもなく年を越そうとしている人たちの多さに同情し、銀行式に僅かずつの金を貸し出すことを思い立った。さっそく同市石神地区民生委員長管沢松三郎氏(78)に相談した所管沢氏もこの計画に賛成し、貸付方法を各地区民生委員の認可のみ必要として無利子とすることを決めた。返金方法は生活扶助から差し引いてもらうこととして夜でも昼でもいつでも貸すということから“昼夜銀行”と名をつけた。

初めはひそかにやっていたが次第に知れ渡り利用者が増える一方、この美德に深く感激して3千円や5千円の寄付を申し出る人も多くなった。今では運営費も7万円となり市社会福祉事務所から委託事業費として5万円が配布され、利用者も4年間ですでに500人を超え1日5人を下らないという。

最終更新日： 2014年07月25日

序説：戦後地域福祉実践の先駆的系譜竹之下 典 祥（文学部児童教育学科）

戦後は民生委員制度として生まれ変わり、防貧と自立を目的とした世帯更生運動を推進する。なかでも、岩手県花巻では岩手県社会福祉協議会民生委員部会初代会長の小川金英（松庵寺住職）の呼びかけによる市民救済「よるひる銀行」を創設。現在の生活福祉基金貸付制度の先駆けとなった世帯更生活動で、民生委員有志に基金を求めた画期的取組で、無利子無担保の貸し付けが行われ世帯更生資金貸付制度の全国展開の先駆けであった 14)。

14) 岩手県社会福祉協議会（2013）『いわて福祉だより「パートナー」』 vol. 585.